



山道てくてく、行商中

山口あいみ(お菓子売りの「てくてく」)

登山道での出会いを大切に

読者の皆さま、はじめまして。お菓子売りの「てくてく」こと、山口あいみと申します。

私は北海道の各地の山々で毎週末、登山をしながら焼き菓子の移動販売を行っています。2020年7月からこの活動をスタートして、今季で4シーズン目。おかげさまで、最近ではたくさんの登山者の皆さんから「てくてくさん!」と声をかけてもらう機会が増えて、本当にありがたい限りです。

山では通常、挨拶だけで行き違うケースがほとんどですが、背負子しょいこを背負った私がある種のコミュニケーションツールのような存在になっているのか、普段の登山では体験できないような深い交流をすることができて、私にとっても大切なひとときになっています。

さて、せっかくの機会を与えていただきましたので、ここでは私が「てくてく」を始めることになったきっかけやいきさつ、「道」について思うことなどをテーマに、お話しさせていただければと思います。

わくわくしながらコツコツと

小さいころの私はおてんばで好奇心旺盛、いつも野外を駆け回って遊んでいるような子どもでした。今でも楽しいこと、面白いこと、わくわくすることが最優先という性

格は変わってなくて、気後れせずにどんどんチャレンジしていくタイプだと自己分析しています。

2020年、友人と計画していたカフェの新規オープン企画がコロナ禍の影響で白紙になってしまいました。すでに仕事を辞めて準備を進めていたこともあり、「うーん、これからどうしよう。何かできることはないかな」と考えて行き着いたのが、「てくてく」の活動でした。



カフェのメニューの試作を通じて、焼き菓子づくりには取り組んでいたのですが、まずはネット販売や委託販売を検討しましたが、いまいちピンと来なかったんですね。そんな時に「山登りが大好きなんだし、いっそのこと山で売ったら楽しいんじゃないか」というアイデアがひらめいて、直感で「これだ!」と確信しました。



そこからはもう行動あるのみ。一人でやりきるしかない
と覚悟を決めて、コツコツと準備を進めました。

まずは「菓子製造業」の許可を取るためにワンルーム
のアパートを借りて、専用工房として整備しました。私が
作るクッキーはデパートに並ぶような高級品ではないけれ
ど、きび砂糖を使った優しい甘さが持ち味。イメージし
たのは「日常の行動食」です。登山リュックや通勤・通学
カバンにそっと忍ばせておいて、食べたい時に食べたい
分だけサッと食べて、すぐにしまっておけるようにジップ
付きのパッケージを採用しました。

トレードマークにもなっている三角屋根のお菓子箱も自
作です。自宅の物置で眠っていたリンゴの木箱に、通販
で手に入れた背負子しょいこをセットして、ホームセンターでカット
してもらったアクリル板をはめ込んで商品が見えるような
構造に。カラフルに塗装した屋根を付けて仕上げました。

販売については、よく知っている小樽西部の塩谷丸
山（標高629m）からスタートしようと考えていたので、小
樽市保健所に申請を出して「行商」の許可を取得しまし
た。プレーン、ココアチョコチップ、抹茶マカダミア、レモン
の4種類のクッキーを詰めたお菓子箱を背負い、首から
許可書をぶら下げて登山口に向かったのは、2020年7
月24日のことでした。

善意でつなぐ登山道

初めてのお客様のことは、今でもはっきりと覚えてい
ます。女性2人と男性1人のお友達パーティーで、登山
もまだまだ初心者とのことでした。登山口からすぐのと
ころで出会って、「今日からこんな行商を始めたんです
よ」と声をかけると、女性の方たちが「かわいい!」と言
って、さっそく買ってくれました。幸先が良くてホッとしま
したし、「ああ、これは行けそうだな」という手応えをつかむ
ことができました。結局、初日は60個ほど売れて、家で
待っていた子どもたちも大喜びでした。

体を動かすのが大好きなので、特につらいことはあり
ませんが、2シーズン連続でスキー中に転倒して靭帯を

断裂し、行商のスタートが遅れてしまったことは残念で
した。2023年は8月15日から再開しましたが、山での行
商がリハビリにもなりますし、体のコンディションを知るパ
ロメーターにもなっています。当日はたくさんの方が会い
に来てくれて、「行商を初めて良かったなあ」とうれしさを
かみ締めていました。結局、人と山が好きだから、この
活動を続けているんですよ。

登山歴としては10年ぐらいですが、札幌近郊の空沼
岳（標高1251m）の「空沼岳万計山荘友の会」メンバー
として、万計山荘を維持管理するボランティア活動に参
加しています。また伊達市の紋別岳（標高714m）の登
山道整備にも協力しています。どこの山も同じだと思いま
すが、地元の山岳会や有志の方たちを中心に、草の根的
なボランティアで登山道の整備が行われています。そう
した地道な善意の積み重ねがあるからこそ、私たちは
安全に登山を楽しむことができるんですね。

これは一般道も同じかもしれませんが、「道」は共有
財産。常に誰かの手が加わって、守りつないでいるんだ
と、山登りを通じて実感しています。

行商には昔ながらの対面販売の良さがあります。道
内各地でお会いした方々から「また来てね」と声をかけ
ていただくと、山のお菓子屋さんを続けていて良かった
など心から思えます。待っていてくれる人がいることが幸
せですし、何よりモチベーションにつながっています。

道内には魅力的な山がたくさんありますので、皆さん
もそれぞれのスタイルで登山を楽しんでほしいですね。

それでは、どこかの山でお会いしましょう♪

山口 あいみ
（お菓子売りの「てくてく」）

■ profile
1980年北海道小樽市生まれ、札幌在住。10年
程前から登山を始める。札幌市内で調理の仕事
をしながら、休みの日にはお菓子売りの「てくてく」
として活動中。
最新情報はInstagram「tekuteku_mountain」で
チェックを。

